## 相次ぐ不正ログイン

# ID・パスワード 危険な使い回し

インターネットの会員制サイトで、他のサイトから流出したID・パスワードを使ったとみられる不正なログインが相次いでいる。個人情報の大量流出が頻発するなか、複数のサイトでIDなどを使い回すリスクは高い。ネット通販で勝手に商品を購入される被害も発生しており、専門家は「サイトごとにIDを使い分けるのは自衛の基本」と呼び掛けている。

サイバー空間 潜む罠

## 勝手に購入など被害

チケット販売サイト「イープラス」を利用している大阪府のパートの女性(48)は10月、「4万6260円をクレジットカードで決済を完了しました」と身に覚えのないメールを受信。自分のIDで東京都で開催されるコンサートのチケット6枚が購入されていたため、慌ててカード会社に連絡して支払いを免れた。

イープラスでは9月、不正ログインで勝手にチケットの購入手続きをされる被害が190件発生。運営会社は「他社サービスから流出したと思われるメールアドレスとパスワードが使われた」としている。大阪府の女性も「ほぼ全てのサイトで同じID・パスワードを使っていた」という。

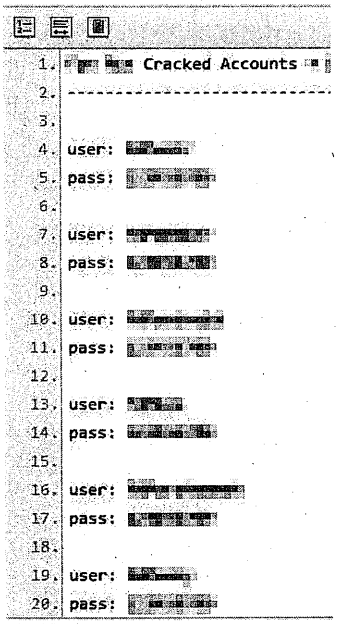
今年に入ってIDなど個人情報の大量流出は相次いでおり、ネット接続サービス「OCN」では最大約400万件、検索サービス「ヤフー」では約148万件に上った。日本IBMの守屋英一氏は「こうした流出情報が不正アクセスに転用されている可能性は高い」と指摘。電子書籍サイト「イーブックジャパン」で4月に発生した779件の不正ログインを運営会社が解析した結果、386件はたった1回のパスワード入力で不正ログインに成功していた。

4～8月に約24万件の不正ログインがあった交流サイト「アメーバ」を運営するサイバーエージェントも、「他社サービスから流出した可能性のあるID・パスワードを利用したとみられる」との見解を公表している。

ネット上には流出したID・パスワードを無料で公開する掲示板や、リストを数十万円程度で売買するサイトも存在。

岐阜、兵庫両県警が8日、他人のIDでネット通販サイト「楽天市場」にアクセスし、ポイントを電子マネーに換金したなどとして逮捕した中国人の大学生2人は「サイトで知り合った中国人からパスワードなどを買った」と供述しているという。

情報システム大手SCSKの境稔氏は「あるサイトのIDとパスワードのリストを基に別のサイトにログインを試みた場合、100件中1、2件は成功するのではないか」と推測。不正ログインによる被害を防ぐため、IDなどの使い回しを避けるよう強調している。




インターネット上で公開されているIDとパスワードのリスト
＝一部画像処理しています